

教育研究業績書

2024年10月22日

所属：薬学科

資格：准教授

氏名：北山 友也

研究分野	研究内容のキーワード	
薬学教育、神経化学	教育、神経障害性疼痛	
学位	最終学歴	
博士（薬学）	金沢大学大学院自然科学研究科博士後期課程生命科学専攻	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 対面授業への反転授業の実施	2021年9月1日から現在	対面授業への移行に伴い、遠隔授業で得たノウハウを用いて反転授業を導入し、実施している。
2. 薬剤師国家試験結果に基づく教育法の導入	2021年4月1日から現在	本学学生の国家試験結果（自己採点）を基に、当該学生の国家試験成績と在学時のすべての科目との成績を紐づけして解析した。解析結果を基に、各学年での開講科目成績と国家試験成績の関係をグラフ化し、新入生教育に導入した。
3. 遠隔授業に対応した授業	2020年5月1日2021年3月31日	遠隔授業の実施に対応するため、主担当教員を協力し演習を中心とした教育方法を実施。主担当がオンデマンドでの講義を担当し、その進捗状況に従い演習講義を実施し、反転授業の要素を取り入れた。
4. 遠隔授業に関するアンケートの実施およびフィードバック	2020年4月1日2021年3月31日	薬学科1年生から4年生を対象に遠隔授業に関するアンケートをgoogleフォームを用いて実施した。その内容について、前期および後期に分けて学部教授会にて教員へフィードバックした。
5. FD講習を担当	2019年7月31日	学部内のFDにて、留年生対策に関する講習をおこなった。
6. 自己学習時間計画作成と報告	2015年4月1日から現在	担当クラス学生全員に対して、次週1週間の自己学習時間の計画を立てさせ、実際の時間・感想・改善点を記入させて提出させている。提出された自己学習時間計画・報告書について、アドバイスを記入後、各学生へ返却している。この提出・返却を毎週実施し、自己学習の定着を目指すと共に、実情を教員が把握することにより、他の学生へのより効率的な指導をおこなうための資料として活用している。
7. 生理学	2014年9月19日現在	主に生理学を中心とした生理解剖学を習熟度が低い学生対象におこなった。少人数クラスで授業をおこない、配布物を工夫し、毎回の確認試験、演習や課題を用いて理解度の把握と促進を図った。
8. 薬の働きを調べる	2014年9月19日2021年3月31日	薬理学1の教員と協力して薬理学実習をおこなっている。実習終了後に面接試験（口頭試問）で行うことにより、筆記試験では把握できない学生の理解度、ものの見方、考え方等の実習目標の達成度をより詳細に把握することが可能となり、その場で訂正することにより学生に即時フィードバックすることができ成果をあげている。
9. 解剖学	2014年4月1日現在	主に解剖学を中心とした生理解剖学を習熟度が低い学生対象におこなった。少人数クラスで授業をおこない、配布物を工夫し、毎回の確認試験、演習や課題を用いて理解度の把握と促進を図った。
10. 口腔機能学実習（薬理学）試験の実施	2003年4月1日2013年3月31日	実習試験を面接試験（口頭試問）で行うことにより、筆記試験では把握できなかった学生の理解度、ものの見方、考え方等の実習目標の達成度をより詳細に把握することが可能となり、後の講義、実習にフィードバックすることで成果をあげている。
11. 薬理学実習の実施	2003年4月1日2013年3月31日	実習終了後に討論形式の実習発表会を学生主導で行い、講義や参考書で得た知識を実験結果を関連付け、より実践的な知識の育成に成果を上げている。
2 作成した教科書、教材		
1. 反転授業用の予習動画	2021年9月1日現在	反転授業を対面で実施するための予習動画を作成し

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
2. 薬剤師国家試験結果に基づく個人成績管理表	2021年4月1日から現在	た。 本学学生の国家試験結果（自己採点）を基に、当該学生の国家試験成績と在学時のすべての科目との成績を紐づけして解析し、開講科目成績と国家試験成績の関係をグラフ化した。グラフは、各学生が成績を入力する事により、国家試験合格に対する現在の實力および不足している領域を自覚することができる。
3. 遠隔授業に対応した動画 4. 薬理学実験視聴覚教材の作成	2020年5月1日から現在 2008年4月1日	遠隔授業に対応した動画教材を作成した。 歯科薬理学実習の実験手技・方法（動物の扱い方、器具・機器の取り扱い、データの取り方、実験手順等）についてビデオに収めたオリジナル視聴覚教材を作成し、実習開始前に視聴させることで実習がスピーディーでわかり易くなったと好評を得た。毎年更新し充実を図っている。
5. 薬理学実験教材の作成	2003年4月1日	薬理学実習のin vivoおよびin vitro実験手技と薬物の用量 - 作用関係の概念、作用機序を解明する手法の一端を体得させる目的として「Pharmacology Student Lab」が作成されていた。これについて、2003年来学問の進歩に合わせて毎年更新し、有効に活用している。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 3Cクラス担任	2023年4月1日から現在	担任として、3年生の学生生活を送れるようにサポートした。
2. 2Cクラス担任	2022年4月1日2023年3月31日	担任として、2年生の学生生活を送れるようにサポートした。また、留年に関わる学生指導および面談を実施した。
3. 1Cクラス担任	2021年4月1日2022年3月31日	担任として、新入生がスムーズに学生生活を送れるようにサポートした。また、6年後の国家試験を見据えた勉強方法を提示した。
4. 2Eクラス担任	2017年4月1日2020年3月31日	留年生のみで構成されたEクラスの担任を務めた。勉強・進級に関する助言をおこなうと共に保護者対応に尽力した。
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 薬理学エドケーター	2021年1月1日から現在	日本薬理学会認定資格
2. 第一種放射線取扱主任者免許	2014年8月4日から現在	免許番号 27960
3. 衛生検査技師免許	2010年10月から現在	免許番号 63419
4. 薬剤師免許	1998年6月から現在	免許番号 332899
2 特許等		
1. 癌性疼痛を処置するための組成物およびその利用(特許第5954790号)	2016年6月24日登録日	森田克也、土肥敏博、本山直世、北山友也、兼松隆、白石成二との共同研究成果である。 癌性疼痛に対する新規鎮痛法を発明した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. IR委員	2021年4月1日から現在	薬学科のIR委員として、各科目とCBT模試、国家試験模試および国家試験自己採点結果などの解析に従事している。解析結果については、教員へのフィードバックをおこない、教育の質向上に関する提案をおこなう。
2. 人権教育推進委員	2021年4月1日から現在	武庫川女子大学の人権教育推進委員
3. 学生委員	2021年4月1日から現在	武庫川女子大学の学生委員
4. 日経ドラッグインフォメーション 取材対応	2020年1月10日発行	特集「薬学部の未来」日経ドラッグインフォメーション（日経BP）について、取材申し込みに対応
5. 放射線安全委員	2019年4月1日から現在	武庫川女子大学の放射線安全委員
6. 放射線取扱主任者	2019年4月1日から現在	武庫川女子大学の放射線取扱主任者
7. CBT・国試対策教育企画委員	2017年4月1日2023年3月31日	薬学科のCBT・国試対策教育企画委員として、さらなる国試対策教育の質向上に努めている。

職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
4 その他				
8. 学生募集行事プロジェクト委員	2014年4月1日2021年3月31日	薬学部の学生募集行事プロジェクト委員として、オープンキャンパスおよびホームページなど入試広報業務に参加		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. "International Proceeding Division, 3rd International Congress on Neuropathic Pain NeuPSIG"	共	2010年5月	Editografica・Bologna (Italy)	"Mechanisms of phase-dependent pain-relief activity of glycine transporter inhibitors after nerve injury" (森田克也, 本山直世, <u>北山友也</u> , 土肥敏博らとの共著) pp. 213-216 第3回国際神経障害性疼痛学会で報告された最新の知見から、特に重要なものを厳選して出版された電子著書。 本人担当部分：実験の共同、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッション並びにデータ解析。
2. 「実験薬理学 実践行動薬理学」	共	2010年3月	金芳堂	「グリントランスポーターを標的とした難治性疼痛治療薬の創薬戦略」 (森田克也, 本山直世, <u>北山友也</u> , 土肥敏博らとの共著) pp. 233-241 本人担当部分：実験データの提供、作図並びに動物実験部分の執筆。
3. 「Clinical Neuroscience別冊」	共	2008年10月	中外医学社	「グリントランスポーターと疾患・薬物作用」 森田克也, <u>北山友也</u> , 土肥敏博らとの共著 pp. 1102-1103 本人担当部分：実験データの提供、作図並びにトランスポーター部分の執筆。
2 学位論文				
1. NMDAシグナルによる成熟脳内神経系前駆細胞の成長制御に関する神経薬理学的研究	単	2003年3月		"Possible regulation by N-methyl-D-aspartate receptors of proliferative progenitor cells expressed in adult mouse hippocampal dentate gyrus." を元に作成した。
3 学術論文				
1. COVID-19 and its impact on the national examination for pharmacists in Japan: An SNS text analysis 「査読付」	単	2023年6月	PLoS ONE 18(6): e0288017, 2023	北山友也 単著のため全て担当
2. 肥満改善薬使用に関する社会的傾向と薬学部生の認識 「査読付」	共	2022年1月	医療薬学 第48巻第1号: pp. 35-46, 2022	北山友也、西村奏咲、栗原晶子との共同研究 本人担当部分：研究計画の立案、データ解析並びに論文作成。
3. General anesthetic actions on GABAA receptors in vivo are reduced in phospholipase C-related catalytically inactive protein knockout mice. 「査読付」	共	2017年8月	J. Anesth. Aug vol. 31: pp.531- 538, 2017	Hayashiuchi M., <u>Kitayama T.</u> , Morita K., Yamawaki Y.らとの共著 本人担当部分：学位請求論文作成の指導、研究計画立案、実験補助並びにデータ解析補助、論文作成に関するディスカッション
4. Down-regulation of zinc transporter-1 in astrocytes induces	共	2016年12月	Neurochemistry International vol. 101: pp.120 -131, 2016	<u>Kitayama T.</u> , Morita K., Motoyama N., Dohi.らとの共著 本人担当部分：研究計画の立案、実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッション並びに論文作成

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
neuropathic pain via the brain-derived neurotrophic pactor-K ⁺ -Cl ⁻ co-transporter-2 signaling pathway in the mouse spinal cord. 「査読付」				
5.薬理学教育に対する解剖生理学領域における低習熟度学生対象教育の効果 「査読付」	共	2016年12月	薬学雑誌 vol. 136:pp. 1651-1656 2016	北山友也、籠田智美、吉川紀子、河井伸之、西村奏咲、他との共同研究 本人担当部分：研究計画の立案、データ解析並びに論文作成。
6.Pelief of cancer pain by glycine transporter inhibitors. 「査読付」	共	2014年10月	Anesthesia and Analgesia Vol. 119: pp. 988-995, 2014	Motoyama N., Morita K., Shiraishi S., Kitayama T., Kanematsu T., Uezono Y., Dohi T.らの共著 本人担当部分：学位請求論文作成指導の補助、動物の行動実験を中心とした実験の共同並びにデータ解析補助、論文作成に関するディスカッション
7.Phospholipase C-related catalyically inactive protein (PRIP) controls KIF5B-mediated insulin secretion. 「査読付」	共	2014年5月	Biology Open vol. 3: pp. 463-474, 2014	Asano S., Nemoto T., Kitayama T., らとの共著 本人担当部分：データの提供並びに実験方法の確立、インスリン分泌細胞の培養法およびアッセイ法
8.Palliation of bone cancer pain by antagonists of platelet-activating factor receptors. 「査読付」	共	2014年5月	Plos One Vol. 17: e91746, 2014	Morita K., Shiraishi S., Motoyama N., Kitayama T. らとの共著 本人担当部分：タンパク質発現解析、動物の行動実験を中心とした実験の共同並びに論文作成に関わるディスカッション
9.Pain-releasing action of platelet-activating factor (PAF) antagonisits in neuropathic pain animal models and the mechanisms of action. 「査読付」	共	2013年9月	European Journal of pain vol. 17: pp.1156-1167, 2013	Motoyama N., Morita K., Kitayama T., Shiraishi S.らの共著 本人担当部分：学位請求論文作成指導補助、動物行動実験を中心とした実験の共同並びにデータ解析補助
10.Changes of activity and structure of jaw muscles in Parkinson' s disease model rats. 「査読付」	共	2013年5月	Journal of Oral Rehabilitation vol. 40: pp.205-213, 2013	Nakamura S., Kawai N., Ohnuki Y., Saeki Y.らとの共著 本人担当部分：パーキンソンモデル動物の作成法並びにモデル動物作成の確認法の教授
11.Phosphalipase C-related but catalytically inactive protein modulates pain behavior in a neuropathic pain model in mice. 「査	共	2013年5月	Molecular pain. vol. 9: 23, 2013	Kitayama T., Morita K., Sultana R., Kikushige N.らとの共著 本人担当部分：研究計画の立案、実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッション並びに論文作成の共同

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
読付]				
12." Glycine transporter inhibitors as a novel drug discovery strategy for neuropathic pain." 「査読付」	共	2009年7月	Pharmacology & Therapeutics vol. 123: pp.54-79, 2009	Dohi T., Morita K., <u>Kitayama T.</u> , Motoyama N.らとの共著 本人担当部分：各種モデル動物の作成並びに動物行動実験の共同
13." The regulation of glycine transporter GlyT1 is mainly mediated by protein kinase Calpha in C6 glioma cells." 「査読付」	共	2008年12月	Neurochemistry International vol. 53: pp.248-254, 2008	Morioka N., Abdin JM., Morita K., <u>Kitayama T.</u> らとの共著 本人担当部分：タンパク質変動の検出並びに解析
14." Up-regulation of ciliary neurotrophic factor receptor expression by GABA (A) receptors in undifferentiated neural progenitors of fetal mouse brain." 「査読付」	共	2008年9月	Journal of Neuroscience research vol. 86: pp.2615-2623, 2008	Fukui M., Nakamichi N., Yoneyama M., Yoshida K.らとの共著 本人担当部分：研究内容の立案、神経系前駆細胞の培養法の確立
15." Glycinergic mediation of tactile allodynia induced by platelet-activating factor (PAF) through glutamate-NO-cyclic GMP signaling in spinal cord in mice." 「査読付」	共	2008年9月	Pain vol. 138: pp.525-536, 2008	Morita K., <u>Kitayama T.</u> , Morioka N. and Dohi T.らとの共著 本人担当部分：動物の行動実験を中心とした実験の共同
16." Promotion of neuronal differentiation through activation of N-methyl-D-aspartate receptors transiently expressed by undifferentiated neural progenitor cells in fetal rat neocortex." 「査読付」	共	2008年8月	Journal of Neuroscience Research vol. 86: pp.2392-2402, 2008	Yoneyama M., Nakamichi N., Fukui M., <u>Kitayama T.</u> らとの共著 本人担当部分：神経系前駆細胞培養に関するデータの提供、論文作成に関するディスカッション
17." Spinal anti-allodynia action of glycine transporter inhibitors in neuropathic pain	共	2008年8月	The Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics Vol.326: pp.633-645, 2008	Morita K., Motoyama N., <u>Kitayama T.</u> , Morioka N.らとの共著 本人担当部分：モデル動物作成および同動物におけるタンパク質発現変動の解析並びに動物行動実験の共同

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
models in mice.” 「査読付」 18.” Group III metabotropic glutamate receptor activation suppresses self-replication of undifferentiated neocortical progenitor cells.” 「査読付」	共	2008年6月	Journal of Neurochemistry vol. 105: pp. 1996-2012, 2008	Nakamichi N., Yoshida K., Ishioka Y., Makanga J.O.らとの共著 本人担当部分：神経系前駆細胞培養に関するデータの提供並びに未分化細胞培養法およびアッセイ法の確立、論文作成に関するディスカッション
19.” Cyclic ADP-ribose mediates formyl methionyl leucyl phenylalanine (fMLP)-induced intracellular Ca(2+) rise and migration of human neutrophils.” 「査読付」	共	2008年5月	Journal of Pharmacological Sciences Vol. 106: pp.492-504, 2008	Morita K., Saida M., Morioka N., <u>Kitayama T.</u> らとの共著 本人担当部分：ヒト好中球調製並びにデータ解析、論文作成に関するディスカッション
20.” Down-regulation of norepinephrine transporter expression on membrane surface induced by chronic administration of desipramine and the antagonism by co-administration of local anesthetics in mice.” 「査読付」	共	2008年5月	Neurochemistry International vol. 52: pp.826-833, 2008	Song L., <u>Kitayama T.</u> , Morita K., Morioka N.らとの共著 本人担当部分：学位請求論文作成の指導、研究計画立案、実験補助並びにデータ解析補助、論文作成に関するディスカッション
21.” P2X(7) receptor stimulation in primary cultures of rat spinal microglia induces downregulation of the activity for glutamates transporter.” 「査読付」	共	2008年4月	Glia Vol. 56: pp.528-538, 2008	Morioka N., Abdin M.J., <u>Kitayama T.</u> , Morita K.らとの共著 本人担当部分：培養法の確立およびその調整
22.” Assessing an eating disorder induced by 6-OHDA and the possibility of nerve regeneration therapy by transplantation of neural progenitor cells in rats.” 「査読付」	共	2007年6月	日本神経精神薬理学雑誌 Vol. 27: pp.109-116, 2007	<u>Kitayama T.</u> , Onitsuka Y., Song L., Morioka N.らとの共著 本人担当部分：研究計画の立案、実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッション並びに論文作成の共同
23.” Activation of GABAA receptors	共	2007年5月	Journal of Neurochemistry	Yoneyama M., Fukui M., Nakamichi N., <u>Kitayama T.</u> らとの共著 本人担当部分：研究内容の立案、神経系前駆細胞の培養法の確立

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
facilitates astroglial differentiation induced by ciliary neurotrophic factor in neural progenitors isolated from fetal rat brain.” 「査読付」			Vol. 100: pp. 1667-1679, 2007	
24.” Analgesic action of nicotine on tibial nervw transection (TNT)-induced mechanical allodynia through enhancement of the glycinergic inhibitory system in spinal cord.” 「査読付」	共	2006年12月	Life Sciences Vol. 80: pp.9-16, 2006	Abdin M.J., Morioka N., Morita K., <u>Kitayama T.</u> , らとの共著 本人担当部分：学位請求論文作成の指導補助、動物に対する手術法の教授並びに補助、動物行動実験の指導および補助、論文作成に関するディスカッション
25.” Down-regulation of norepinephrine transporter function induced by chronic administration of desipramine linking to the alteration of sensitivity of local anesthetics-induced convulsions and the counteraction by co-administration with local anesthetics.” 「査読付」	共	2006年6月	Brain Research Vol. 1096: pp.97-103, 2006	<u>Kitayama T.</u> , Song L., Morita K., Morioka N. らとの共著 本人担当部分：研究計画の立案、実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッション並びに論文作成の共同
26.” Cyclic ADP-Ribose Requires FK506-Binding Protein to Regukate Intracellular Ca(2+) Dynamics and Catecholamine Release in Acetylcholine-Stimulated Bovine Adrenal Chromaffin Cells.” 「査読付」	共	2006年5月	Journal of Pharmacological Sciences Vol. 101: pp.45-51, 2006	Morita K., <u>Kitayama T.</u> , Kitayama S. and Dohi T. らとの共著 本人担当部分：ウシ副腎由来初代クロマフィン細胞の調整並びにカルシウム測定の共同
27.” Regulation of neuronal differentiation by N-methyl-D-aspartate	共	2004年6月	Journal of Neuroscience Research Vol. 76: pp.599-612, 2004	<u>Kitayama T.</u> , Yoneyama Y., Tamaki K. and Yoneda Y. らとの共著 本人担当部分：研究計画の立案、実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッション並びに論文作成の共同

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
receptors expressed in neural progenitor cells isolated from adult mouse hippocampus.” 「査読付」				
28.” Immunohistochemical detection by immersion with Carnoy solution of particular non-N-methyl-D-aspartate receptor subunits in murine hippocampus.” 「査読付」	共	2004年6月	Neurochemistry International Vol. 44: pp.413-422, 2004	Yoneyama M., <u>Kitayama T.</u> , Taniura H. and Yoneda Y.らとの共著 本人担当部分：修士論文作成の指導、研究の立案、実験方法の確立および教授、各実験の補助並びに論文作成に関するディスカッション
29.” Immersion fixation with carnoy solution for conventional immunohistochemical detection of particular N-methyl-D-aspartate receptor subunits in murine hippocampus.” 「査読付」	共	2003年8月	Journal of Neuroscience Research Vol. 73: pp.416-426, 2003	Yoneyama M., <u>Kitayama T.</u> , Taniura H. and Yoneda Y.らとの共著 本人担当部分：修士論文作成の指導、研究の立案、実験方法の確立および教授、各実験の補助並びに論文作成に関するディスカッション
30.” Possible regulation by N-methyl-D-aspartate receptors of proliferative progenitor cells expressed in adult mouse hippocampal dentate gyrus.” 「査読付」	共	2003年2月	Journal of Neurochemistry Vol. 84: pp.767-780, 2003	<u>Kitayama T.</u> , Yoneyama M. and Yoneda Y.らとの共著 本人担当部分：研究計画の立案、実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッション並びに論文作成の共同
31.” Effects of glutathione depletion by 2-cyclohexen-1-one on excitatory amino acids-induced enhancement of activator protein-1 DNA binding in murine hippocampus.” 「査読付」	共	2001年5月	Journal of Neurochemistry Vol. 76: pp.1905-1915, 2001	Ogita K., <u>Kitayama T.</u> , Okuda H. and Yoneda Y.らとの共著 本人担当部分：全ての実験の実施並びにデータ解析
32.” Differential expression and phosphorylation of particular Fos family members by kainite in nuclear and cytosolic	共	2000年9月	Neuroscience Vol. 100: pp.453-463, 2000	Manabe T., <u>Kitayama T.</u> , Ogita K. and Yoneda Y. 本人担当部分：組織学的実験並びにタンパク質解析実験の標品の作成

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
fractions of murine hippocampus.” 「査読付」 33.” Sustained potentiation of AP1 DNA binding is not always associated with neuronal death following systemic administration of kainic acid in murine hippocampus.” 「査読付」	共	1999年12月	Neurochemistry International Vol. 35: pp.453-462, 1999	<u>Kitayama T.</u> , Ogita K. and Yoneda Y.らとの共著 本人担当部分：すべての実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッション並びに論文作成の共同
34.” Sensitization by prolonged glutathione depletion of kainic acid to potentiate DNA binding of the nuclear transcription factor activator protein-1 in murine hippocampus.” 「査読付」	共	1999年7月	Neuroscience Letters Vol. 269: pp.157-160, 1999	<u>Kitayama T.</u> , Ogita K., Nomoto M. and Yoneda Y.らとの共著 本人担当部分：すべての実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッション並びに論文作成
35.” Predominant expression of nuclear activator protein-1 complex with DNA binding activity following systemic administration of N-methyl-D-aspartate in dentate granule cells of murine hippocampus.” 「査読付」	共	1999年6月	Neuroscience Vol. 93: pp.19-31, 1999	Yoneda Y., Ogita K., Azuma Y.らとの共著 本人担当部分：組織学的解析およびRI実験を担当並びにデータ解析
36.” Possible involvement of membrane phospholipids in inhibition by ferrous ions of [3H]MK-801 binding to the native N-methyl-D-aspartate channel in rat brain.” 「査読付」	共	1999年2月	日本神経精神薬理学雑誌 Vol. 19: pp.33-40, 1999	Yoneda Y., Ogita K., Shuto M., Manabe T.らとの共著 本人担当部分：バインディングアッセイに用いる膜標品の調整並びにRI実験の補助
37.” Differential inhibition by ferrous ions of	共	1999年2月	Brain Research Vol. 818: pp.548-552, 1999	Ogita K., Shuto M., Kuramoto N., Manabe T.らとの共著 本人担当部分：バインディングアッセイに用いる膜標品の調整並びにRI実験の補助

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
[3H]MK-801 binding to native N-methyl-D-aspartate channel in neonatal and adult rat brains.” 「査読付」				
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. 「摂食障害から検討するパーキンソン病.」	共	2008年10月	第18回日本臨床精神神経薬理学会 第38回日本神経精神薬理学会 合同大会	東京 北山友也、鬼塚悠里、宋莉秋、森岡徳光らとの共同発表 学会賞受賞記念講演 本人担当部分：研究計画の立案、実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッションの共同
2. 「抗うつ薬によるノルアドレナリントランスポーター機能抑制に対する局所麻酔薬の影響.」	共	2006年3月	第15回神経行動薬理学若手研究者の集い	千葉 北山友也、宋莉秋、森田克也、土肥敏博らとの共同発表 本人担当部分：研究計画の立案、実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッションの共同
2. 学会発表				
1. 遠隔授業による有機化学教育の弱点と対応	共	2021年3月	第141回日本薬学会年会	広島 西村奏咲、北山友也、中村一基による共同研究 新型コロナ感染対策のためWEB開催
2. 自己学修時間と留年との関連性に関する解析（第2報）	共	2021年3月	第141回日本薬学会年会	広島 北山友也、西村奏咲、中村一基による共同研究 新型コロナ感染対策のためWEB開催
3. 自己学習時間と留年生との関連性に関する解析	共	2020年3月	第140回日本薬学会年会	京都 北山友也、西村奏咲、野坂和人による共同研究 新型コロナ感染対策のため誌上開催
4. 歯学部における国家試験の変遷から見てくる薬剤師国家試験の今後－禁忌肢問題の導入後の変化－	共	2019年9月	第4回日本薬学教育学会大会	大阪・豊中 北山友也、野坂和人による共同研究
5. 1年前期開講科目における強化教育対象学生選別法の開発と評価	共	2019年9月	第4回日本薬学教育学会大会	大阪・豊中 西村奏咲、北山友也、野坂和人による共同研究
6. 成績推移およびアンケート調査結果に基づく強化教育対象者選別法の評価	共	2018年9月	第3回薬学教育学会大会	金沢 西村奏咲、川崎郁勇、北山友也、三木知博による共同研究
7. 自己学習時間と成績との関係に関する3年間の調査研究	共	2018年9月	第3回日本薬学教育学会大会	東京・品川 北山友也、西村奏咲、三木知博による共同研究
8. 「スペクトル構造解析におけるカルタを用いた演習の実施と評価」	共	2018年3月	第138回日本薬学会年会	金沢 河井伸之、川崎郁勇、北山友也、西村奏咲、その他による共同研究
9. 「クラスサイズの違いによる成績およびアンケート結果への影響」	共	2018年3月	第138回日本薬学会年会	金沢 西村奏咲、北山友也、三木知博による共同研究
10. 「成績に対する自己学習時間調査の影響」	共	2018年3月	第138回日本薬学会年会	金沢 北山友也、西村奏咲、三木知博、その他による共同研究
11. 「自己学習時間の実態調査と成績との関係に関する調査研	共	2017年3月	第137回日本薬学会年会	仙台 北山友也、河井伸之、西村奏咲、その他による共同研究

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
究」				
12. 「スペクトル構造解析学の習熟度別授業の実践と評価」	共	2017年3月	第137回日本薬学会年会	仙台 河井伸之、川崎郁勇、北山友也、西村奏咲、その他による共同研究
13. 「2016年度薬学部初年次教育（有機化学）における基礎学力強化教育の運用と評価」	共	2017年3月	第137回日本薬学会年会	仙台 西村奏咲、川崎郁勇、稲本浄文、来海徹太郎、河井伸之、北山友也、その他による共同研究
14. 生化学（生体成分領域）における学力強化対象者に対する教育の運用と評価	共	2016年3月	第136回日本薬学会年会	横浜 安井菜穂美、河井伸之、北山友也、西村奏咲、その他による共同研究
15. 薬理学領域理解度に対する解剖生理学教育の影響	共	2016年3月	第136回日本薬学会年会	横浜 北山友也、籠田智美、吉川紀子、河井伸之、その他による共同研究
16. 下級学年成績に基づいた成績予測式による習熟度別クラス判定法の評価	共	2016年3月	第136回日本薬学会年会	横浜 三浦健、篠塚和正、河井伸之、北山友也、その他による共同研究
17. 2015年度薬学部初年次教育（有機化学）における基礎的学力強化教育の運用と評価	共	2016年3月	第136回日本薬学会年会	横浜 西村奏咲、来海徹太郎、河井伸之、北山友也、その他による共同研究
18. 三年次生への有機合成化学領域における習熟度別少人数講義の効果	共	2016年3月	第136回日本薬理学会年会	横浜 河井伸之、西出喜代治、北山友也、西村奏咲、その他による共同研究
19. 細胞内亜鉛濃度変化に伴う神経障害性疼痛発症機構	共	2015年11月	第128回日本薬理学会近畿部会	大阪 北山友也、森田克也、兼松隆らとの共同研究
20. 有機化学系科目における習熟度別講義の三年次生への運用とその評価	共	2015年3月	第135回日本薬学会年会	神戸 河井伸之、西出喜代治、北山友也、西村奏咲、その他による共同研究
21. 生化学（代謝領域）における学力強化教育の運用と評価	共	2015年3月	第135回日本薬学会年会	神戸 安井菜穂美、河井伸之、北山友也、西村奏咲、その他による共同研究
22. 薬理学分野における強化教育に対する予備的評価	共	2015年3月	第135回日本薬学会年会	神戸 三浦健、篠塚和正、河井伸之、北山友也、その他による共同研究
23. 薬学部初年次教育（有機化学）における習熟度別授業の効果	共	2015年3月	第135回日本薬理学会年会	神戸 西村奏咲、西出喜代治、来海徹太郎、河井伸之、北山友也、その他による共同研究
24. 解剖生理学分野における強化教育法による成績への影響	共	2015年3月	第135回日本薬学会年会	神戸 北山友也、森山賢治、籠田智美、河井伸之、その他による共同研究
25. PRIP遺伝子欠損マウスにおけるpropofol麻酔作用の変調	共	2015年3月	第88回日本薬理学会年会	名古屋 林内優樹、北山友也、山脇洋輔その他による共同研究
26. ZnT1の発現低下はBDNF-KCC2経路を介して神経障害性疼痛を誘導する	共	2014年3月	第87回日本薬理学会年会	仙台 北山友也、森田克也、兼松隆らとの共同発表
27. PRIP遺伝子欠損マウスで認められる神経因性疼痛寛解作用は	共	2013年3月	第86回日本薬理学会年会	福岡 北山友也、森田克也、Rizia Sultana、兼松隆らとの共同発表

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
KCC2高発現に起因する.				
28. 「PRIP1ノックアウトマウスとPRIP1, 2ダブルノックアウトマウスは疼痛反応の表現型が異なる」	共	2012年3月	第85回日本薬理学会年会	京都 北山友也、森田克也、兼松隆らとの共同発表
29. 「疼痛シグナルに対するPRIP分子の影響」	共	2011年10月	第53回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会	岐阜 北山友也、森田克也、兼松隆らとの共同発表
30. 「慢性難治性疼痛の発症と維持機構における血小板活性化因子(PAF)の役割」	共	2011年10月	第53回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会	岐阜 本山直世、森田克也、北山友也、西村英紀らとの共同発表
31. 「PRIP分子の疼痛反応への影響」	共	2011年7月	第119回日本薬理学会近畿部会	名古屋 北山友也、森田克也、菊重奈美、兼松隆らとの共同発表
32. 「GABARAPおよびPRIPによるインスリン分泌調節」	共	2011年3月	第84回日本薬理学会年会	横浜 北山友也、平田雅人、兼松隆らとの共同発表
33. 「神経因性疼痛発症時に見られるグリシンシグナルの変調機構」	共	2010年10月	第94回広島大学歯学会	広島 本山直世、森田克也、北山友也、西村英紀らとの共同発表
34. 「神経因性疼痛が誘発するNMDA受容体のサブユニット構築変化」	共	2010年9月	第52回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会	東京 鶴田竜一、北山友也、森田克也、兼松隆らとの共同発表
35. 「神経障害性疼痛発症における抑制性グリシンシグナルの変調機構に関する研究」	共	2010年9月	第52回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会	東京 本山直世、北山友也、西村英紀、兼松隆らとの共同発表
36. 「インスリン分泌顆粒の輸送を調節する新しい分子」	共	2010年9月	第52回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会	東京 兼松隆、北山友也らとの共同発表
37. 「グリシントランスポーターと神経障害性疼痛」	共	2010年7月	第5回トランスポーター研究会年会	東京 本山直世、森田克也、北山友也、兼松隆らとの共同発表
38. 「神経障害性疼痛における中枢神経系NMDAシグナルの変調」	共	2010年6月	第43回広島大学歯学会総会	広島 鶴田竜一、北山友也、森田克也、兼松隆らとの共同発表
39. 「疼痛治療ターゲットとしてのグリシントランスポーター」	共	2010年6月	社団法人日本麻酔科学会第57回学術集会、第13回アジア・オーストラレーシア麻酔科学会	福岡 森田克也、本山直世、北山友也、兼松隆らとの共同発表
40. "Mechanisms of phase-dependent pain-relief activity of glycine transporter inhibitors after nerve injury"	共	2010年5月	Third International Congress on Neuropathic Pain (NeuPSIG)	Athens, Greece K. Morita, N. Motoyama, T. Kitayama, Y. Jinninらとの共同発表
41. "Glycine transporter inhibitors as a	共	2010年5月	Third International Congress on	Athens, Greece T. Dohi, K. Morita, N. Motoyama, T. Kitayamaらとの共同発表

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
novel drug discovery strategy for neuropathic pain”			Neuropathic Pain (NeuPSIG)	
42. 「神経障害性疼痛発症とグリシンシグナルの変調」	共	2010年3月	第83回日本薬理学会年会	大阪 森田克也、本山直世、北山友也、西村英紀らとの共同発表
43. 「慢性難治性疼痛の発症と維持におけるグリシン神経の役割。」	共	2010年3月	第19回神経行動薬理 若手研究者の集い	岡山 本山直世、森田克也、北山友也、西村英紀らとの共同発表
44. 「神経因性疼痛初期疼痛におけるクロライドイオン輸送体発現制御機構に関する研究」	共	2010年3月	第19回神経行動薬理 若手研究者の集い	岡山 北山友也、本山直世、森田克也、西村英紀らとの共同発表
45. 「三環系抗うつ薬の抗アロディニア作用におけるグリシン神経の関与」	共	2010年3月	第19回神経行動薬理 若手研究者の集い	岡山 神人友樹、森田克也、本山直世、北山友也らとの共同発表
46. ”The improvement of 6-OHDA-induce eating disorders by transplantation of neural progenitor cells in rats”	共	2009年11月	The 6th Japan-Korea Conference on Cellular signaling for Young Scientists	Sasebo, Nagasaki, Japan Tomoya Kitayama, Katsuya Morita and Takashi Kanematsuらとの共同発表
47. ”Glycine transporter inhibitors as a potential therapeutic strategy for neuropathic pain”	共	2009年11月	The 6th Japan-Korea Conference on Cellular signaling for Young Scientists	Sasebo, Nagasaki, Japan Katsuya Morita, Naoyo Motoyama, Tomoya Kitayama, Takashi Kanematsuらとの共同発表
48. 「痛み発症における血小板活性化因子(PAF)受容体の関与」	共	2009年10月	第131回日本歯科保存学会秋季学術大会	仙台 本山直世、貴船幸基、森田克也、北山友也らとの共同発表
49. 「糖尿病性疼痛モデルにおけるグリシントランスポーター阻害薬の抗アロディニア作用」	共	2009年9月	第51回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会	新潟 本山直世、北山友也、神人友樹、西村英紀らとの共同発表
50. 「慢性・難治性疼痛管理における血小板活性化因子(PAF)受容体阻害薬の有用性について」	共	2009年9月	第51回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会	新潟 貴船幸基、本山直世、北山友也、西村英紀らとの共同発表
51. 「ストレプトゾトシン誘発痛性糖尿病モデルに対するグリシントランスポーター(GlyT)阻害薬の寛解作用。」	共	2009年6月	第115回日本薬理学会近畿部会	金沢 北山友也、本山直世、西村英紀、兼松隆らとの共同発表
52. 「血小板活性化因子受容体阻害薬による抗神経因性疼痛作用」	共	2009年3月	第82回日本薬理学会年会	横浜 北山友也、本山直世、森田克也、岡広子らとの共同発表
53. 「神経因性疼痛発症時におけるCl ⁻ 輸送体	共	2008年11月	第114回日本薬理学会近畿部会	神戸 北山友也、本山直世、森田克也、岡広子らとの共同発表

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
発現制御機構」				
54. 「神経損傷後疼痛モデルにおけるグリシン神経を介した鎮痛作用」	共	2008年11月	第129回日本歯科保存学会秋季学術大	富山 本山直世、森田克也、北山友也、西村英紀らとの共同発表
55. 「神経因性疼痛における発症と脳由来神経栄養因子(BDNF)の関与について」	共	2008年10月	第47回広島県歯科医学会、第92回広島大学歯学会例会、日本歯科技工学会中国・四国支部第3回学術大会	広島 本山直世、森田克也、北山友也、西村英紀らとの共同発表
56. 「神経因性疼痛で認められるグリシンシグナル賦活による疼痛抑制効果」	共	2008年10月	第18回日本臨床精神神経薬理学会 第38回日本神経精神薬理学会 合同大会	東京 北山友也、森田克也、本山直世、西村英紀らとの共同発表
57. 「血小板活性化因子(PAF)の脊髄内投与によるアロディニア発症におけるNO-cGMPカスケードを介したグリシン受容体 $\alpha 3$ (Gly $\alpha 3$)の関与」	共	2008年9月	第50回日本歯科基礎医学学会学術大会ならびに総会	東京 本山直世、森田克也、北山友也、西村英紀らとの共同発表
58. 「神経因性疼痛形成段階で認められるグリシンシグナル変調に関する薬理学的研究」	共	2008年9月	第50回日本歯科基礎医学学会学術大会ならびに総会	東京 北山友也、森田克也、本山直世、西村英紀らとの共同発表
59. 「血小板活性化因子(PAF)受容体阻害による神経因性疼痛寛解作用」	共	2008年6月	第113回日本薬理学会近畿部会	岡山 森田克也、本山直世、北山友也、岡広子らとの共同発表
60. 「脊髄ミクログリアにおけるATP受容体を介したグルタミン酸トランスポーター制御機構」	共	2008年6月	第3回トランスポーター研究会年会	京都 森岡徳光、北山友也、森田克也、仲田義啓らとの共同発表
61. 「神経因性疼痛に対するグリシントランスポーターの役割ー痛みの制御の可能性ー」	共	2008年6月	第3回トランスポーター研究会年会	京都 北山友也、森田克也、本山直世、岡広子らとの共同発表
62. 「ストレプトゾトシン誘発有痛性糖尿病ニューロパチーモデルマウスにおけるグリシントランスポーター阻害薬の鎮痛作用」	共	2008年6月	第128回日本歯科保存学会春季学術大会	新潟 本山直世、森田克也、北山友也、西村英紀らとの共同発表
63. 「神経因性疼痛形成および維持におけるグリシンシグナル関連蛋白質発現解析」	共	2008年3月	第81回日本薬理学会年会	横浜 北山友也、森田克也、本山直世、岡広子らとの共同発表
64. 「グルタミン酸誘発アロディニア応答におけるグリシン受容体 $\alpha 3$ の関与」	共	2008年3月	第81回日本薬理学会年会	横浜 森田克也、本山直世、北山友也、貴船幸基らとの共同発表
65. "Spinal glycine	共	2007年11月	37th Annual	San Diego, U.S.A.

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
receptor $\alpha 3$ subunit (GlyR $\alpha 3$) involvement of inhibitor of glycine transporter-induced anti-allodynia effects in neuropathic pain models in mice”			Meeting of Society for Neuroscience	T. Dohi, K. Morita, N. Motoyama, <u>T. Kitayama</u> らとの共同発表
66. ”Anti-allodynia effects of glycine transporter inhibitors in neuropathic pain models in mice”	共	2007年11月	37th Annual Meeting of Society for Neuroscience	San Diego, U.S.A. K. Morita, N. Motoyama, <u>T. Kitayama</u> , N. Moriokaらとの共同発表
67. 「脊髄ミクログリアにおけるATP受容体を介したグルタミン酸トランスポーター機能調節」	共	2007年11月	第35回薬物活性シンポジウム	広島 森岡徳光、 <u>北山友也</u> 、森田克也、仲田義啓らとの共同発表
68. 「神経因性疼痛発症機構におけるCl ⁻ 輸送体の関与」	共	2007年11月	第112回日本薬理学会近畿部会	大阪 <u>北山友也</u> 、森田克也、本山直世、岡広子らとの共同発表
69. 「神経因性疼痛におけるグリシン作動性神経の役割」	共	2007年10月	第46回広島県歯科医学会 第91回広島大学歯学会例会 日本歯科技工学会中国・四国支部 第2回学術大会	広島 本山直世、森田克也、 <u>北山友也</u> 、土肥敏博らとの共同発表
70. 「ATP誘発アロディニア発症機構—グリシン作動性抑制系の関与」	共	2007年9月	自然科学研究機構 生理学研究所研究会	岡崎 森田克也、本山直世、 <u>北山友也</u> 、土肥敏博らとの共同発表
71. 「グリシントランスポーター阻害による神経因性疼痛制御」	共	2007年9月	第30回日本神経科学大会、第50回日本神経化学学会大会、第17回日本神経回路学会大会	横浜 森田克也、本山直世、 <u>北山友也</u> 、森岡徳光らとの共同発表
72. 「坐骨神経障害マウスにおけるグリシントランスポーター阻害薬の神経因性疼痛寛解作用機序」	共	2007年8月	第49回歯科基礎医学学会学術大会ならびに総会	札幌 本山直世、森田克也、 <u>北山友也</u> 、土肥敏博らとの共同発表
73. 「局所麻酔薬および抗うつ薬慢性投与によるNET蛋白質細胞表面発現調節に関する研究」	共	2007年7月	第29回日本生物学的精神医学会、第37回日本神経精神薬理学会	札幌 <u>北山友也</u> 、宋莉秋、森田克也、土肥敏博らとの共同発表
74. 「グリシントランスポーター阻害薬による神経因性疼痛寛解作用におけるグリシン受容体 $\alpha 3$ (GlyR $\alpha 3$)の関与」	共	2007年7月	第29回日本疼痛学会	横浜 森田克也、本山直世、 <u>北山友也</u> 、森岡徳光らとの共同発表
75. ”Antinociceptive effects of glycine transporter	共	2007年6月	8th World Congress on Inflammation	Copenhagen, Denmark T. Dohi, K. Morita, N. Motoyama, <u>T. Kitayama</u> らとの共同発表

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
inhibitors in various pain models in mice”				
76. "Glycine receptors are target molecule for induction of tactile allodynia by platelet-activating factor-glutamate-cGMP cascade in mouse spinal cord”	共	2007年6月	8th World Congress on Inflammation	Copenhagen, Denmark T. Dohi, K. Morita, <u>T. Kitayama</u> , N. Motoyamaらとの共同発表
77. 「グリシントランスポーター阻害薬による神経因性疼痛寛解作用とその機序」	共	2007年6月	第40回広島大学歯学会総会	広島 本山直世、森田克也、 <u>北山友也</u> 、土肥敏博らとの共同発表
78. 「血小板活性化因子(PAF)、グルタミン酸脊髄内投与によるアロディニア発症におけるNO/cGMPカスケードとグリシン受容体の関与」	共	2007年6月	第111回日本薬理学会近畿部会	名古屋 森田克也、 <u>北山友也</u> 、森岡徳光、本山直世らとの共同発表
79. 「神経因性疼痛モデルマウスにおけるグリシントランスポーター阻害薬の抗侵害作用」	共	2007年6月	第27回日本歯科薬物療法学会	東京 本山直世、森田克也、 <u>北山友也</u> 、森岡徳光らとの共同発表
80. 「炎症性疼痛モデルにおけるグリシントランスポーター阻害薬の鎮痛作用」	共	2007年6月	第27回日本歯科薬物療法学会	東京 貴船幸基、本山直世、森田克也、 <u>北山友也</u> らとの共同発表
81. "Antiallodynia effects of glycine transporter inhibitors in mice”	共	2007年5月	3rd International conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators	Sorrento, Italy T. Dohi, K. Morita, N. Motoyama, <u>T. Kitayama</u> らとの共同発表
82. "Platelet-activating factor induces tactile allodynia by dishinhibition of glycinergic control through glutamate-cGMP cascade in mouse spinal cord”	共	2007年5月	3rd International conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators	Sorrento, Italy T. Dohi, K. Morita, <u>T. Kitayama</u> , N. Motoyamaらとの共同発表
83. 「培養脊髄マイクログリアにおけるATP受容体を介したグルタミン酸トランスポーターの制御」	共	2007年3月	第80回日本薬理学会年会	名古屋 森岡徳光、Abdin Md. J.、 <u>北山友也</u> 、森田克也らとの共同発表
84. 「グリシントランスポーターによる神経因性疼痛の制御」	共	2007年3月	第80回日本薬理学会年会	名古屋 森田克也、本山直世、 <u>北山友也</u> 、森岡徳光らとの共同発表
85. 「神経因性疼痛モデルマウス脊髄におけるマイクログリアおよ	共	2007年3月	第80回日本薬理学会年会	名古屋 <u>北山友也</u> 、森田克也、本山直世、森岡徳光らとの共同発表

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
びグリシンシグナル蛋白質の免疫組織学的検討」				
86. 「神経系前駆細胞移植によるパーキンソンモデル動物摂食障害改善の可能性」	共	2007年3月	第16回神経行動薬理若手研究者の集い	名古屋 北山友也、鬼塚悠里、土肥敏博らとの共同発表
87. 「脊髄ミクログリアにおけるグルタミン酸トランスポーター機能制御に対するATPの関与」	共	2006年11月	第110回日本薬理学会近畿部会	京都 森岡徳光、Abdin Md. J.、北山友也、森田克也らとの共同発表
88. 「神経因性疼痛モデルマウスにおけるグリシントランスポーター阻害薬の抗侵害作用」	共	2006年11月	第90回広島大学歯学会例会	広島 本山直世、森田克也、貴船幸基、北山友也らとの共同発表
89. "Glycinergic mediation of allodynia induced by platelet-activating factor in spinal cord in mice"	共	2006年10月	36th Annual Meeting of Society for Neuroscience	Atlanta, USA T. Dohi, K. Morita, N. Morioka, N. Motoyamaらとの共同発表
90. "Antinociceptive effect of nicotine on tibial nerve transection-induced neuropathic pain"	共	2006年10月	36th Annual Meeting of Society for Neuroscience	Atlanta, USA N. Morioka, J. Abdin, K. Morita, T. Kitayamaらとの共同発表
91. 「グリシントランスポーター阻害薬の神経因性疼痛寛解作用」	共	2006年9月	第34回薬物活性シンポジウム	群馬 森田克也、本山直世、貴船幸基、森岡徳光らとの共同発表
92. 「グリシントランスポーター阻害薬の鎮痛作用」	共	2006年9月	第48回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会	横浜 森田克也、本山直世、貴船幸基、森岡徳光らとの共同発表
93. 「培養脊髄ミクログリアにおけるグルタミン酸トランスポーター機能に対するATP受容体P2X7の関与。」	共	2006年9月	第48回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会	横浜 森岡徳光、アブディン、北山友也、森田克也らとの共同発表
94. 「Cyclic ADP-riboseの脊髄腔内投与による痛覚過敏とアロディニア誘発に関する研究」	共	2006年9月	第48回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会	横浜 本山直世、森田克也、貴船幸基、森岡徳光らとの共同発表
95. "Nicotine has an antinociceptive effect on tibial nerve transaction-induced mechanical allodynia"	共	2006年9月	第28回日本生物学的精神医学会、第36回日本神経精神薬理学会、第49回日本神経化学会大会 合同大会	名古屋 アブディン、森岡徳光、森田克也、北山友也らとの共同発表
96. "Analysis of recovery from 6-OHDA-induced eating disorders by neural	共	2006年9月	第28回日本生物学的精神医学会、第36回日本神経精神薬理学会、第49回日本神経化学会大	名古屋 北山友也、鬼塚悠里、宋莉秋、森岡徳光らとの共同発表

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
progenitor cell transplantation.”			会 合同大会	
97. "Intrathecal nicotine has the analgesic effect on the tibial nerve transection (TNT)-induced neuropathic pain"	共	2006年7月	15th World Congress of Pharmacology	Beijin, China N. Morioka, Abdin Joynal, K. Morita, <u>T. Kitayama</u> らとの共同発表
98. "Cyclic ADP-ribose mediates calcium signaling for chemoattractants in human neutrophils"	共	2006年7月	15th World Congress of Pharmacology	Beijin, China K. Morita, M. Saida, N. Morioka, <u>T. Kitayama</u> らとの共同発表
99. "Role for CD38 in cyclic ADP-ribose-mediated calcium signaling in human neutrophils"	共	2006年7月	15th World Congress of Pharmacology	Beijin, China T. Dohi, K. Morita, M. Saida, N. Moriokaらとの共同発表
100. 「神経因性疼痛および炎症性疼痛モデルマウスにおけるグリシントランスポーター阻害薬の抗アロディニアおよび鎮痛作用」	共	2006年7月	第40回日本ペインクリニック学会 第28回日本疼痛学会	神戸 森田克也、本山直世、貴船幸基、森岡徳光らとの共同発表
101. 「脛骨神経損傷誘発疼痛モデルにおける機械的アロディニアに対するニコチンの抗侵害作用」	共	2006年7月	第40回日本ペインクリニック学会 第28回日本疼痛学会	神戸 森岡徳光、M. J. Abdin、 <u>北山友也</u> 、森田克也らとの共同発表
102. 「6-OHDA誘発性摂食障害に対する神経前駆細胞移植の影響」	共	2006年7月	第29回日本神経科学大会	京都 <u>北山友也</u> 、鬼塚悠里、森田克也、土肥敏博らとの共同発表
103. 「Cyclic ADP-ribose(cADPR)系のヒト好中球細胞内Ca ²⁺ 動態と走行性における役割」	共	2006年6月	第26回日本歯科薬物療法学会	高松 森田克也、 <u>北山友也</u> 、森岡徳光、土肥敏博らとの共同発表
104. 「神経因疼痛および炎症性疼痛モデルマウスにおけるグリシントランスポーター阻害薬の抗侵害作用」	共	2006年6月	第109回日本薬理学会近畿部会	倉敷 森田克也、本山直世、貴船幸基、森岡徳光らとの共同発表
105. 「パーキンソンモデル動物に認められる摂食行動障害に対する神経幹細胞の効果」	共	2006年6月	第39回広島大学歯学会	広島 鬼塚悠里、 <u>北山友也</u> 、土肥敏博らとの共同発表
106. 「ヒト好中球カルシウム情報伝達系におけるcyclic ADP-riboseの役割」	共	2006年3月	第79回日本薬理学会年会	横浜 森田克也、齋田穰、森岡徳光、 <u>北山友也</u> らとの共同発表
107. 「脛骨神経損傷疼痛モデルにおける機械的アロディニアに対するニコチンの鎮痛	共	2006年3月	第79回日本薬理学会年会	横浜 森岡徳光、Abdin Md. Joynal、 <u>北山友也</u> 、森田克也らとの共同発表

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
効果」 108. 「口腔リラクセーション実施による唾液中のクロモグラニンAおよびIgAの測定。」	共	2005年11月	第44回広島県歯科医師会、第89回広島大学歯学会	広島 松本厚枝、北山友也、森岡徳光、森田克也らとの共同発表
109. 「Desipramine慢性投与によるNET蛋白質細胞内局在性変動に対するLidocaineに拮抗作用」	共	2005年11月	第108回日本薬理学会近畿部会	神戸 宋莉秋、北山友也、森田克也、土肥敏博らとの共同発表
110. 「デシプラミンによるノルアドレナリントランスポーター機能抑制に対するリドカインの拮抗作用」	共	2005年10月	第33回薬物活性シンポジウム	新潟 北山友也、宋莉秋、森田克也、土肥敏博らとの共同発表
111. 「パーキンソンモデル動物に認められる摂食障害と細胞移植の影響。」	共	2005年9月	第47回歯科基礎医学学会学術大会	仙台 北山友也、森田克也、土肥敏博らとの共同発表
112. 「唾液とクロモグラニンAの分泌量に対する口腔リラクセーションの影響」	共	2005年9月	第47回歯科基礎医学学会学術大会	仙台 松本厚枝、北山友也、森岡徳光、森田克也らとの共同発表
113. 「痛覚伝導における血小板活性化因子(PAF)の役割—ATP、グルタミン酸、cGMPの関与—」	共	2005年9月	生理学研究所研究会	岡崎 土肥敏博、森田克也、森岡徳光、北山友也らとの共同発表
114. 「非ステロイド性抗炎症薬によるMPP+誘発性細胞死増悪効果作用メカニズムの解析」	共	2005年9月	生体機能と創薬シンポジウム2005—疾患に関わる生体分子と治療薬—	広島 森岡徳光、北山友也、森田克也、北山滋雄らとの共同発表
115. "Tactile allodynia induced by PAF and glutamate is mediated through NO/cyclic GMP/G-kinase cascade in spinal cord"	共	2005年8月	The 7th World Congress on Inflammation	Melbourne, Australia T. Dohi, K. Morita, M. J. Abdin, N. Moriokaらとの共同発表
116. "Cyclic ADP-ribose is an intracellular messenger for fMLP-induced intracellular Ca2+ rise and migration of human neutrophils"	共	2005年8月	The 7th World Congress on Inflammation	Melbourne, Australia T. Dohi, K. Morita, N. Morioka and T. Kitayamaらとの共同発表
117. 「抗うつ薬デシプラミン慢性投与によるノルアドレナリントランスポーター蛋白発現変動に対する局所麻酔薬の影響。」	共	2005年8月	第9回活性アミンに関するワークショップ	広島 北山友也、宋莉秋、森田克也、北山滋雄らとの共同発表
118. 「抗うつ薬デシプラミン慢性投与によるノルアドレナリント	共	2005年8月	第9回活性アミンに関するワークショップ	広島 宋莉秋、北山友也、森田克也、北山滋雄らとの共同発表

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
119. 「副腎クロマフィン細胞におけるcyclic ADP-ribose(cADPR)の細胞内Ca ²⁺ 動員機構とカテコールアミン遊離における役割」	共	2005年8月	第9回活性アミンに関するワークショップ	広島 森田克也、北山友也、北山滋雄、土肥敏博らとの共同発表
120. 「パーキンソンモデル動物に発症する摂食障害」	共	2005年7月	第27回日本生物学的精神医学会・第35回日本神経精神薬理学会合同年会	大阪 北山友也、宋莉秋、森田克也、土肥敏博らとの共同発表
121. 「デシプラミン慢性投与によるノルアドレナリントランスポーター機能抑制に及ぼす局所麻酔薬の影響。」	共	2005年7月	第27回日本生物学的精神医学会・第35回日本神経精神薬理学会合同年会	大阪 宋莉秋、北山友也、森田克也、新井茂昭らとの共同発表
122. 「パーキンソンモデル動物に発現する摂食障害ならびに行動障害。」	共	2005年6月	第107回日本薬理学近畿部会	金沢 北山友也、宋莉秋、森田克也、土肥敏博らとの共同発表
123. 「抗うつ薬慢性投与下におけるノルアドレナリントランスポーター機能に対する局所麻酔薬の影響」	共	2005年6月	第107回日本薬理学近畿部会	沢 宋莉秋、北山友也、森田克也、北山滋雄らとの共同発表
124. 「パーキンソンモデル動物に認められる摂食障害に対する神経再生療法の可能性。」	共	2005年5月	第20回神経組織の成長・再生・移植研究会学術大会	大阪 北山友也、宋莉秋、森田克也、土肥敏博らとの共同発表
125. 「摂食障害における神経再生医療の可能性。」	共	2005年3月	第78回日本薬理学会年会	横浜 北山友也、宋莉秋、森田克也、土肥敏博らとの共同発表
126. 「非ステロイド性抗炎症薬による multidrug resistance proteins活性阻害を介したMPP+誘発性細胞死の増悪効果。」	共	2005年3月	第78回日本薬理学会年会	横浜 森岡徳光、北山友也、森田克也、北山滋雄らとの共同発表
127. 「脊髄の痛覚伝道における血小板活性化因子(PAF)の役割」	共	2005年3月	第78回日本薬理学会年会	横浜 土肥敏博、森田克也、森岡徳光、Abdin Joynalらとの共同発表
128. 「合成局所麻酔薬効果に対する各種血管収縮薬の影響」	共	2005年2月	第24回日本歯科薬物療法学会	東京 濱本正弘、森田克也、森岡徳光、北山友也らとの共同発表
129. 「局所麻酔薬痙攣感作におけるセロトニン神経の役割」	共	2005年2月	第24回日本歯科薬物療法学会	東京 濱本正弘、森田克也、森岡徳光、北山友也らとの共同発表
130. 「口腔領域における神経再生治療の可能性。」	共	2004年11月	第32回薬物活性シンポジウム	大阪 北山友也、森田克也、米山雅紀、米田幸雄らとの共同発表
131. 「CD38/cyclic ADP-ribose系のヒト好中	共	2004年11月	第32回薬物活性シンポジウム	大阪 森田克也、北山友也、伊藤剛志、本山直世らとの共同発表

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
球細胞内Ca ²⁺ 動態と走化性能における役割.]				
132. "Cyclic ADP-ribose mediates PAF-induced intracellular Ca ²⁺ rise in human neutrophils"	共	2004年10月	2nd International Conference Phospholipases A2 & 8th International Congress Platelet-Activating Factor and Related Lipid Mediators	Berlin T. Dohi, K. Morita, M. Saida, Y. Akagawa, らとの共同発表
133. 「リドカイン局所麻酔効果に対する各種血管収縮薬の影響」	共	2004年10月	第55回中国地区歯科医学大会（併催）第43回広島県歯科医学会・第88回広島大学歯学会	広島 濱本正弘、森田克也、森岡徳光、北山友也らとの共同発表
134. 「口腔リラクゼーション実施時の唾液分泌量と精神的リラクセスの効果について。」	共	2004年9月	第46回歯科基礎医学学会学術大会ならびに総会	広島 松本厚枝、原久美子、森岡志摩、竹本俊伸らとの共同発表
135. 「口腔リゾホスホリパーゼDによるリン脂質性増殖因子リゾホスファチジン酸の産生。」	共	2004年9月	第46回歯科基礎医学学会学術大会ならびに総会	広島 平良智、徳村彰、福澤健治、北山友也らとの共同発表
136. 「口腔でのリゾリン脂質メディエーター産生ーリゾホスホリパーゼDの関与ー。」	共	2004年9月	第46回歯科基礎医学学会学術大会ならびに総会	広島 徳村彰、蔭山千恵子、福澤健治、北山友也らとの共同発表
137. 「口腔領域における神経再生治療に関する基礎的研究。」	共	2004年9月	第46回歯科基礎医学学会学術大会ならびに総会若手サテライトシンポジウム	広島 北山友也、森田克也、米山雅紀、米田幸雄らとの共同発表
138. 「抗うつ薬の慢性投与による局所麻酔薬痙攣の感作現象」	共	2004年3月	第77回日本薬理学会年会	大阪 新井茂昭、森田克也、北山友也、北山滋雄らとの共同発表
139. 「成熟マウス海馬由来神経前駆細胞の分化能に対するNMDAシグナルの影響。」	共	2003年10月	第33回日本神経精神薬理学会年会	奈良 米山雅紀、北山友也、米田幸雄らとの共同発表
140. "Immunohistochemical detection of particular NMDA receptor subunits in murine hippocampus"	共	2003年9月	第46回日本日本神経化学学会年会	新潟 玉置啓祐、山田清文、米山雅紀、北山友也らとの共同発表
141. "Modulation by N-methyl-D-aspartate receptors of development of cultured neural progenitor cells isolated from	共	2003年9月	第46回日本日本神経化学学会年会	新潟 米山雅紀、北山友也、米田幸雄らとの共同発表

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
adult murine hippocampus.”				
142. 「好中球細胞内Ca ²⁺ 濃度動態におけるcyclic ADP-riboseの役割」	共	2003年9月	第45回歯科基礎医学学会学術大会	盛岡 斎田穰、森田克也、北山友也、赤川安正らとの共同発表
143. ”Expression of functional heteromeric N-methyl-D-aspartate receptor channel in cultured neural progenitor cells prepared from adult murine hippocampus”	共	2003年5月	The 4th International Symposium on Receptor Mechanisms, Signal Transduction and Drug Effects	Fukui, Japan Yoneyama M., Kitayama T. and Yoneda Y.らとの共同発表
144. 「成熟マウス海馬由来神経前駆細胞におけるNMDAシグナルによる分化制御」	共	2003年5月	第103回日本薬理学会近畿部会	福井 米山雅紀、北山友也、米田幸雄らとの共同発表
145. 「マウス海馬内NMDAレセプターサブユニットの免疫組織化学的検出」	共	2003年3月	第76回日本薬理学会年会	福岡 米山雅紀、北山友也、米田幸雄らとの共同発表
146. ”Effect of NMDA on differentiation of progenitor cell in adult murine hippocampus in vitro.”	共	2003年3月	第76回日本薬理学会年会	福岡 北山友也、米山雅紀、米田幸雄らとの共同発表
147. 「成熟マウス海馬由来神経前駆細胞における機能的NMDA受容体発現の可能性」	共	2002年11月	第102回日本薬理学会近畿部会	岡山 北山友也、米山雅紀、米田幸雄らとの共同発表
148. 「NMDAレセプターサブユニットの免疫組織化学的検出時における固定液の影響」	共	2002年10月	第32回日本神経精神薬理学会年会	群馬 米山雅紀、北山友也、米田幸雄らとの共同発表
149. 「培養神経前駆細胞のNMDAシグナル応答性」	共	2002年10月	第32回日本神経精神薬理学会年会	群馬 北山友也、米山雅紀、米田幸雄らとの共同発表
150. ”Neurospheres isolated from hippocampus of adult mice”	共	2002年7月	第45回日本神経化学大会	札幌 北山友也、米山雅紀、米田幸雄らとの共同発表
151. 「成熟マウス中枢神経系増殖細胞に対するNMDA投与の影響」	共	2002年3月	第75回日本薬理学会年会	熊本 北山友也、米山雅紀、中村洋一、米田幸雄らとの共同発表
152. 「神経幹細胞培養に関する基礎的研究。」	共	2001年11月	第100回日本薬理学会近畿部会	大阪 北山友也、中村洋一、米田幸雄らとの共同発表
153. 「NMDAレセプターサブユニットの免疫組織化学的検出時における固定液の影響」	共	2001年11月	第100回日本薬理学会近畿部会	大阪 米山雅紀、北山友也、中村洋一、米田幸雄らとの共同発表
154. 「成熟マウス海馬および網膜における新規DNA合成に対するNMDAシグナルの影響」	共	2001年10月	第31回日本神経精神薬理学会年会	広島 北山友也、米山雅紀、中村洋一、米田幸雄らとの共同発表

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
155. 「NMDA応答性を示すBrdU陽性細胞の同定」	共	2001年9月	第24回日本神経科学・第44回日本神経化学 合同大会	京都 北山友也、米山雅紀、中村洋一、米田幸雄らとの共同発表
156. 「グルタメイトレセプターサブユニットの免疫化学的検出」	共	2001年9月	第24回日本神経科学・第44回日本神経化学 合同大会	京都 米山雅紀、北山友也、中村洋一、米田幸雄らとの共同発表
157. "Suppression by NMDA of selective accumulation of 5-brom-2' - deoxyuridine into dentate granular layers of adult murine hippocampus"	共	2001年8月	Joint Meeting of the 18th Biennial Meeting of the International Society for Neurochemistry and the 32nd Annual Meeting of the American Society for Neurochemistry	Buenos Aires, Argentina Kitayama T., Nakakura Y. and Yoneda Y. らとの共同発表
158. 「成熟マウス海馬歯状回顆粒細胞層における新規DNA合成に対するNMDA投与の影響。」	共	2000年10月	第30回日本神経精神薬理学会年會	仙台 北山友也、米田幸雄らとの共同発表
159. 「成熟マウス脳海馬への5-bromo-2' - deoxyuridine取り込みに対するNMDAレセプター活性化の影響」	共	2000年10月	第43回日本神経化学学会大会	金沢 北山友也、米山雅紀、中村洋一、米田幸雄らとの共同発表
160. 「マウス海馬歯状回顆粒細胞層の新規DNA合成に対するNMDAの影響」	共	2000年6月	第97回日本薬理学会近畿部会	大阪 北山友也、大山紀子、荻田喜代一、小井田雅夫らとの共同発表
161. 「カイニン酸投与後に発現する海馬AP1蛋白質の経時的変化」	共	1999年9月	第29回日本神経精神薬理学会年會	広島 北山友也、荻田喜代一、米田幸雄らとの共同発表
162. 「カイニン酸投与後の持続的AP1結合上昇」	共	1999年7月	第22回日本神経科学大会	大阪 北山友也、荻田喜代一、小井田雅夫、米田幸雄らとの共同発表
163. 「JunおよびFosファミリー蛋白質のカイニン酸応答性海馬AP1結合への関与」	共	1999年3月	第72回日本薬理学会年會	札幌 北山友也、荻田喜代一、米田幸雄らとの共同発表
164. 「グルタチオンの海馬内グルタメイトシグナリングへの関与。」	共	1998年10月	第29回日本神経精神薬理学会年會	東京 北山友也、野本舞、荻田喜代一、米田幸雄らとの共同発表
165. 「マウス海馬内細胞核activator protein-1への興奮性アミノ酸シグナリングの相違。」	共	1998年9月	第41回日本神経化学学会年會	東京 北山友也、荻田喜代一、米田幸雄らとの共同発表
166. 「海馬AP-1結合の興奮性アミノ酸誘発性増強におけるGSHの関与。」	共	1998年9月	第41回日本神経化学学会年會	東京 荻田喜代一、北山友也、米田幸雄らとの共同発表
167. "Preferential signaling through N-methyl-D-	共	1998年7月	The 13th International Congress of	Munich, Germany Kitayama T., Nomot M., Manabe T., Ogita K. らとの共同発表

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
aspartate receptor nuclear activator protein-1 in murine dentate gyrus.”			Pharmacology	
168. "Differential expression by kainite of nuclear activator protein -1 in murine hippocampus.”	共	1998年6月	The 4th Meeting of the Asia Pacific Society for Neurochemistry	Seoul, Korea Kitayama T., Manabe T., Ogita K. and Yoneda Y.らとの共同発表
169. 「カイニン酸誘発性海馬AP1 DNA結合増強におけるグルタミンの関与.」	共	1998年6月	第93回日本薬理学近畿部会	名古屋 北山友也、荻田喜代一、野本舞、檜井栄一らとの共同発表
170. 「海馬内特定領域AP-1結合の興奮性アミノ酸シグナル応答性の相違.」	共	1997年11月	第92回日本薬理学近畿部会	大阪 北山友也、荻田喜代一、米田幸雄らとの共同発表
3. 総説				
1. The role of astrocyte in the modulation of K+-Cl--cotransporter-2 function. 「査読付」	単	2020年12月15日	International Journal of Molecular Sciences vol. 21.(24): 9539, 2020	Kitayama Tの単著 概要：神経障害性疼痛におけるアストログリアによるK+-Cl--cotransporter-2機能の調節を筆者のデータおよび最新の知見を用いて解説した。
2. The role of K+-Cl--cotransporter-2 in neuropathic pain. 「査読付」	単	2018年1月	Neurochem. Res. vol. 43: pp101-106, 2018	Kitayama Tの単著 概要：神経障害疼痛におけるK+-Cl--cotransporter-2輸送体の役割について、筆者のデータを中心に解説した。
3. Effectiveness of hierarchical linear modeling analysis on evaluation research.	共	2017年11月25日	Global Drugs and Therapeutics vol. 3pp1-4. 2017	Kitayama T., Nishimura K., Miki T.の共著 本人担当部分：執筆および作図、内容に関するディスカッション 概要：統計手法のひとつである階層的解析が教育研究で有用な手法であることを基礎的研究と比較して論じた。
4. Relationship between neuropathic pain and zinc ion	単	2016年11月28日	Global Drugs and Therapeutics vol. 1pp1-2. 2016	Kitayama Tの単著 概要：神経障害性疼痛と亜鉛イオンとの関係について、著者のデータを中心に解説した。
5. フッ化水素酸の性質、毒性および応急処置法等について	単	2013年5月	日本歯技（日本歯科技工士会会誌） vol. 6 pp. 13-15. 2013	Kitayama Tの単著 概要：フッ化水素酸の化学的性質、毒性および応急処置などの解説
6. GABAA受容体の構造と機能.	共	2012年12月	Clinical Neuroscience vol. 30 pp, 1346-1348. 2012 中外医学社	北山友也、兼松隆らとの共著 本人担当部分：執筆および作図、内容に関するディスカッション
7. 「神経障害性疼痛治療薬についての薬理学的考察」	共	2011年6月	広島大学歯学会雑誌 第43: pp.9-19, 2011	鶴田竜一、赤城裕一、中峠洋隆、寺邊健人らとの共著 本人担当部分：基礎配属学生の指導の一環として総説作成を指導並びに内容の確認、校正を担当
8. 「摂食運動障害と中枢神経障害」	単	2009年11月	日本神経精神薬理学雑誌 Vol. 29: pp.165-169, 2009	Kitayama Tの単著 概要：パーキンソン症候群の摂食行動に対する影響をモデル動物を用いて解析をおこなった。この研究成果を中心とした総説
9. 「痛くない！？」	共	2008年6月	広島大学歯学会雑誌	渡邊素子、大植香菜、神山長慶、嶋田陽介らとの共著

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3. 総説				
痛無汗症(CIPA)の症状と発症機構―			誌 第40: pp.1-9, 2008	本人担当部分：基礎配属学生の指導の一環として総説作成を指導並びに内容の確認、校正を担当
10. 「グリシントランスポーターによる神経因性疼痛の制御」	共	2007年12月	日本薬理学雑誌 Vol. 130: pp.458-463, 2007	Morita K., Motoyama N., <u>Kitayama T.</u> , Morioka N.らとの共著 本人担当部分：実験データの提供並びに総説作成に関するディスカッション
11. 「神経系前駆細胞の新しい臨床応用の可能性―口腔領域疾患への応用―」	共	2007年12月	広島大学歯学会雑誌 第39: pp.93-100, 2007	<u>北山友也</u> , 森田克也, 宋莉秋, 本山直世らとの共著 本人担当部分：執筆並びに作図、内容に関するディスカッション
12. 「脊髄の痛覚伝導における血小板活性化因子(PAF)の役割」	共	2006年1月	日本薬理学雑誌 Vol. 127: pp.18-24, 2006	Dohi T., Morita K., Morioka N., Joynal Abdin,らとの共著 本人担当部分：実験データの提供並びに総説内容に関するディスカッション
13. 「ヒトの歯における侵害受容の分子機構。」	共	2005年6月	広島大学歯学会雑誌 第37: pp.1-10, 2005	大原紫, 岡村絵里花, 佐久間友梨, 三次翔らとの共著 本人担当部分：基礎配属学生の指導の一環として総説作成を指導並びに内容の確認、校正を担当
14. " Consolidation of transient ionotropic glutamate signals through nuclear transcription factor in the brain." 「査読付」	共	2001年4月	Progress in Neurobiology Vol. 63: pp.697-719, 2001	Yoneda Y., Kuramoto N., <u>Kitayama T.</u> and Hinoi E.らとの共著 本人担当部分：テーマに関する最新の知見検索並びに作図
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. パーキンソン病と摂食障害	単	2009年3月	広島大学第23回東京イブニングセミナー	東京、3月6日
6. 研究費の取得状況				
1. がん細胞が産生する新規鎮痛ペプチドの同定と鎮痛機序の解明、新しい疼痛治療戦略	共	2016年4月1日3年間	日本学術振興会	基盤研究 (B) 課題番号 16H05234 (400,000) 分担
2. 難治性疼痛における血小板活性化因子合成酵素の役割と治療戦略・歯科領域への応用	共	2016年4月1日3年間	日本学術振興会	基盤研究 (C) 課題番号 16K11550 (300,000) 分担
3. 難治性疼痛の発症と維持機構におけるmiRNA/TLR系の役割、新規治療戦略の開拓	共	2015年4月1日2年間	日本学術振興会	挑戦的萌芽研究 課題番号 16H05234 (200,000) 分担
4. 新規細胞内輸送調節分子を介した疼痛制御機構の解明	共	2012年4月1日3年間	日本学術振興会	基盤研究 (C) 課題番号 24592798 (5,460,000) 代表
5. 新規小胞輸送調節分子を介した唾液分泌機構の解明	単	2010年4月1日2年間	日本学術振興会	若手研究 (B) 課題番号 22791789 (4,030,000)
6. 神経因性疼痛発症機構におけるグリシンシグナルの役割とRNA干渉による治療薬開発	単	2007年4月1日2年間	日本学術振興会	若手研究 (B) 課題番号 19791365 (3,720,000)
7. 中枢神経再生医療の口腔領域疾患への応	単	2005年4月1日2年間	日本学術振興会	若手研究 (B) 課題番号 17791323 (3,500,000)

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
用 8. グルタメイトシグナルによる神経幹細胞機能制御と再生医療応用	単	2002年4月1日	日本学術振興会	特別研究員奨励費 1,500,000

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2018年11月19日から現在	一般社団法人予防薬理学研究所 評議員
2. 2018年	予防薬理学研究所の法人化に参画し、法人化した
3. 2016年から現在	薬学教育学会入会
4. 2011年から現在	日本神経精神薬学会 学術評議員
5. 2007年から現在	日本薬理学会 学術評議員
6. 2003年から2015年	日本歯科基礎医学会入会
7. 1999年から現在	日本神経精神薬理学会入会
8. 1999年から現在	日本神経科学学会入会
9. 1998年から現在	日本神経化学学会入会
10. 1997年から現在	日本薬理学会入会